

主 訴

(保護者)
・日常的なことが出来ない。

(担任)
・持ち物が片づけられない。
・学習に興味を示さない。
・班活動にうまく参加できない。

判 断

- ・検査結果から知的な発達の遅れは認められない。
- ・学校生活や行動面で刺激に対する衝動性や多動性及び注意・集中の課題が大きいようである。ADHD周辺の障害を抱えていると思われる。
- ・発達にアンバランスがあり、LDの要素も抱えていると思われる。
 - (例)・音読は流暢だが漢字が覚えられない。
 - ・かけ算のやり方はわかるが、九九が覚えられない。
- ・手指の巧緻性が弱い。
 - (例)・字形が整わない。
 - ・鍵盤ハーモニカや笛が苦手である。

支援と配慮

< 通常の学級における支援 >

- ・座席への配慮や個別の声かけや身体接触をする。
- ・学習量を調整し、補助資料の使用を認める。
- ・見通しを持たせるための工夫を行うとともに、ヘルプサインの出し方を決める。
- ・体育や遊びなど体を動かす活動を大切にす。
- ・持ち物の整理の仕方を図表示する。
- ・ノートの工夫をしたり、言語力を活用した学習のさせ方を工夫したりする。
- ・隣席児童を考慮し、担任が本児の代弁者となる。

< 通常の学級外の支援 >

- ・シンプルな学習用具を持たせる。
- ・チェックリスト(学習準備・宿題・手伝い等)を作成し評価をする。
- ・目と手の協応動作を高める学習を工夫する。
- ・処理速度を意識させる工夫をする。
- ・身体のコントロールをするための運動を工夫する。
- ・集団でプレイする場を工夫する。

その後

校内委員会を中心に保護者の意向を確かめながら、取り組みを継続している。

(主な取り組み)
・国語、算数を中心に学校体制の中で支援を行っている。
・担任が毎日本児の頑張りや協力してもらいたいこと等を保護者に連絡帳で知らせている。
・学校、保護者、通級担当者が定期的に情報交換を行い、支援の方向性についての確認を行っている。

(成果)
・担任の本児に対する指導に迷いがなくなり、自信を持って取り組めるようになった。
・保護者が見通しを持って子育てに取り組めるようになり協力的になった。
・本児が落ち着いて学習や生活に取り組めるようになった。
・苦手な漢字や計算も頑張ろうとする態度や意欲が、みられるようになった。

(課題)
・身の回りの整理整頓はまだ友達や担任に助けてもらっている。
・教科や内容によって意欲にばらつきがある。

(手だて)
・声かけの回数を増やす。
・新たな支援プランについて検討をする。

